

野辺地町民「残念」

八戸学院野辺地西高の移転案が明らかになった28日、地元・野辺地町の野村秀雄町長は取材に「(老朽化した)建物の問題が大きな理由であれば、やむを得ない」との認識を示した。



旧五戸高への移転案が浮上した八戸学院野辺地西高
28日、野辺地町

50年の歴史 さみしさ募らせ 保護者「存続」容認の声も

町民から「残念」との声が漏れた一方、保護者からは「廃校ではなく、存続することはありがたい」と容認の意見が出た。

野村町長によると、学校法人光星学院の法官新一理事長から事前に校舎の老朽化や入学者減少などに伴う経営面が移転検討の理由と説明を受けていたという。

野村町長は「学校には約50年の歴史があり、のへじ祇園まつりにも参加してくれていたので、さみしい思いはある」と語りつつ、「校舎の改修も難しいということだった。法人の決定だ」と移転案に一定の理解を示した。

町民はさみしさを募らせた。地元で同校の制服を取り扱っている久保田衣料店の久保田重光代表は、昨年の光星高との統合案が白紙となったことから「一安心

していた」という。今回の移転案に「残念。商売への影響もあるし、町の経済にも影響が出てくると思う」と不安そうに語った。

移転案に関し、法人側は25日に保護者対象の説明会を開いた。出席者によると、反対意見は出なかったという。

同校PTAの前野優子会長は、部活動に所属する生徒の保護者を中心に法人側と意見交換してきたことを明かし、「五戸への移転の話聞いたときは『えっ』と思ったが、子どもたちのことを第一に考えて存続の道を示してくれたことはありがたい」と率直な思いを口にした。

サッカー部に所属する町外出身部員の母親も「話し合いの中で経営が厳しいと聞き、閉校を覚悟していたので、移転したとしても存続することには賛成」と強調。一方で「学校がなくなると困る人が町内にいると思うと複雑な気持ちもある」とも語った。(齋藤桂)